

公益社団法人 日本技術士会埼玉県支部 CPD 委員会

25CPD006, CPD 講演会「防災 BCP とワークショップ」活動報告

2025/9/20

藤野博史

1. 活動テーマ：CPD 講演「防災 BCP とワークショップ」
2. 開催日時：2025 年 9 月 6 日(土) 13 時 30 分～16 時 30 分
3. 開催場所：リアル開催

新都心ビジネス交流プラザ 4F C 会議室

〒338-0001 さいたま市中央区上落合 2-3-2

5. 参加人数：18 名（内招待参加者 1 名）
6. 実施内容（司会 公益社団法人日本技術士会 埼玉県支部 CPD 委員 藤野博史）

6.1 開会の挨拶（13:30～13:35）

公益社団法人 日本技術士会 埼玉県支部支部長 石田 正雄

6.2 講演（13:35～14:30）

『災害から事業をまもる BCP とは！～防災 BCP の策定方法について～』

講師：黒澤 兵夫氏 技術士（総合技術監理・情報工学） TAKE 国際技術士研究所
BCP（事業継続計画 Business Continuity Plan）の、重要性や中断したとしても可能な限り短時間で復旧させるための方針・体制・手順・対策などの概要を解説頂いた。

6.3 休憩（14:30～14:40）

6.4 グループディスカッション・発表資料作成（14:40～15:45）

想定災害を①首都直下型地震②河川の氾濫の 2 つのテーマとした。参加者を 4～5 人の 4 班に分けて、各班において災害と対象事業者を設定してディスカッションを行った。その後、発表資料の作成を行った。

6.5 発表・質疑応答（15:45～16:20）

各班が、以下の内容について発表を行った。

1 班：首都直下型地震・自動車部品製造業

（講師より）総務営業、製造、調達納入の三層体制でリスクの影響度および対策が良くまとめられていた。

2 班：首都直下型地震・食品（麺）製造業

（講師より）短期・中期・長期に分け BIA を広く考えられていた。

（発表者より）年間売り上げ 5 億円の企業を想定したが、年間に BCP にかかる費用を捻出するのは難しい。早めに対処する必要があるとの意見があった。

3 班：洪水・食品製造業

（講師より）MTPD（3 日・72H）人の生存時間に合わせまとめられていた。

（発表者より）MTPD（最大許容停止時間）を 3 日に設定した理由について、洪水などを想定すると、インフラ回復に要する時間は 3 日が妥当ではないかとの意見があった。

4 班：首都直下型地震・電気部品工場

(講師より) 各種リスクを上げ、各対策を練っており分かり易かった。

(発表者より) また、首都直下型地震では、自社工場だけではなく周囲も同じように被災している。その点では、自社だけではなく他社との協力体制の構築などが必要との意見があった。

7. 講評 (16:20～16:25)

公益社団法人 日本技術士会 埼玉県支部支部長 石田 正雄

今回の講演とワークショップと通じてBCPの必要性を感じた。また、ワークショップは、参加者の意見を聞けて良かったなどと講評がなされた。

8. 閉会の挨拶 (16:25～16:30)

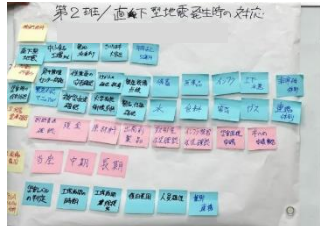
公益社団法人 日本技術士会 埼玉県支部 CPD 委員長 菅原 宏

9. 発表会資料

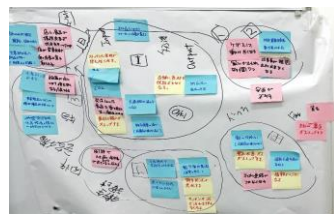
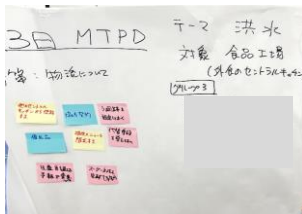
1 班発表資料



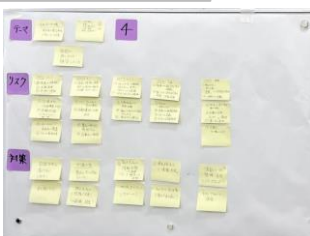
2 班発表資料



3 班発表資料



4 班発表資料



写真撮影：日本技術士会埼玉県支部 CPD 会委員 早瀬和広

文責：日本技術士会埼玉県支部 CPD 会委員 藤野博史